

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【泰平中】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況が二極化している。</p> <p><指導上の課題> 前後の学習を繋げる時間、及び習得した知識・技能を活用する時間を十分確保できていない。</p>	⇒ 授業中に生徒が自らの学びを振り返る時間を設定するとともに、生徒とともに必要感のある課題を設定したり、学んだ知識・技能を活用する場面を設定する【毎時間設定】。
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 証明や説明、表現などの記述関係の問題に弱く無回答率が高い。</p> <p><指導上の課題> 生徒が自己表現する過程を教師が十分に評価できていない。また、評価する時間を確保できていない。</p>	⇒ 活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする。またICT機器を活用し、即時評価の頻度を増やし、指導に活かせるようにする。【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が85%以上】。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		<p>①結果分析(管理職・学年主任等)</p> <p>②詳細分析(学年・教科担当)</p> <p>③分析共有(児童生徒の実態把握)</p> <p>職員会議・校内研修等</p>
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	R6年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、全国平均を上回った。ただし細かく見てみると、国語の「我が国の言語文化に関する事項」、例としては「行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選ぶ」といった問題において全国平均および県平均を下回った。数学では証明問題において、全国平均は上回ったものの、県平均を下回った。小テストなどを通して、語彙力向上を図る。	
思考・判断・表現	R6年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、全国平均を上回った。比較的正答率が低かったのは、数学の「点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ」といった問題で課題が見られた。「なぜその答えになるか」など、思考の過程を可視化できるような学習活動を取り入れる。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	良好	変更なし
思考・判断・表現	B	良好	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)